

やる気発生装置

教室通信 Vol. 3 0 3 7
R 8. 3. 2 5
個別指導教室
セカンド・キャンパス
0 7 5 - 7 1 1 - 0 3 9 9
<https://www.second-campus.com/>

英語力定着のために・・・課題と希望

22日曜日の読売新聞で、「中学英語、基礎定着に課題」という特集記事が掲載され、けっこう話題になっているようです。小学校で単語や文法を体系的に習得できているわけではない（ちゃんとやっている学校がないとは言いませんが、多くは現実的に難しいでしょう）のに、小学校から英語を勉強してきたことを前提として中1からの英語が急に難しくなっている、その状況で、中1から英語をやり始めた時代と比べても中学生の基本的な英語力がついていない、という調査結果をもとに問題提起する記事でした。

小学生にある程度の英語力をつけて中学校に送り出そう、という初年度のときに学校教育全体がコロナ禍でつまづいたという経緯があるのですが、それから5年たっても「英語が基本からわからない」と悩む中学生は後をたたない状態です。いまの中学校の教科書は、はじめから本格的な英文がどんどん登場する盛りだくさんな内容になっていますが、簡単な文のルールを確認しながら1つ1つ地道に練習していくプロセスがやはりもっと必要だろうな、と感じています。そういう練習のなかで、苦手だった英語がだんだん読めるようになる、という姿も見てきていますので、そういう生徒さんが増えていくよう少しでも役に立てたら、という思いを改めて感じました。

あと5年くらいでまた指導要領が変わるはずですので、いまの反省を生かして英語教育の組み立てが再考されるのだろうとは思いますが、どうも「コミュニケーション重視の方向性は変わらず、文法・単語の内容を精選して定着させていく」というのが今後に向けての現在の方針のようです。残念ながら、多くの中学生にとって「仕組みがよくわからないまま英語の海に放り出される」ともいうべき状況はあまり改善されないかも知れません。かえって、昔ながらの塾の教え方のほうに価値が感じられる…となれば、塾としてあまり喜べることではないですが、その時々々の生徒さんの力になりたいということに尽きます。

日本の英語教育のあり方ははっきり言って迷走していますが、希望もあります。AIの急速な発達で、これまでネイティブの個人指導でも受けなければ実現できなかったレベルの個別対応が手軽にできるようになったことはその1つです。そうしたものも活用していきたいです。



きょうの京都は、屋ごころから小雨が降り出しました。甲子園でも1試合中止になったとか。天気は下り坂ですが、あまり寒くはありません。

生徒解答1

You should not call a person 'monkey', no matter how he

◎ 文法上の正確性 (4点満点)

- "call a person 'monkey'" → "a monkey" と冠詞が必要。
- 2文目の "no matter..." は大文字で始めるべき。
- "looks like a monkey" は正しいが、前文の "monkey" → 2/4

◎ 単語選択の妥当性 (3点満点)

ChatGPTによる英文文添削・評価の例。こうした添削や会話練習など、以前ならネイティブの人に個人指導でもしてもらえないとできなかった学習がAIで手軽に実現できるようになっています。これから英語を学ぶ人の希望だと感じます。

当面の教室予定

3/25(水)～3/27(金)

16:00～22:00

3/28(土)

16:00～22:00

3/29(日)

16:00～21:00

3/30(月)～3/31(火)

16:00～22:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。